



平成25年11月21日

海上保安庁

西之島付近の噴火活動の状況について

11月21日午後1時10分から午後2時17分の間、羽田航空基地所属航空機(MA722 みずなぎ)により、当庁職員及び東京工業大学火山流体研究センター野上健治教授が観測を実施した。

西之島の南東約500メートルの海上に長さ約400メートル、幅約200メートルの新島が形成されている(昨日は、直径200メートル程度)。

継続して火口から白い噴煙が上がっており、高さは約900メートルに達している(昨日は、高さ600メートル程度)。

また、1, 2分間隔で固形物を含む黒い噴煙が噴出している。

野上教授から「活動は活発化しており、活動が終息する兆しはない。海面下のかなり浅い所にマグマが上がってきており、昨日と変わらず速いレートで供給されていると推測される。」とのコメントが得られた。

付近航行船舶へは、引き続き航行警報により注意を呼びかけている。

西之島付近に出現した新島と噴煙の様子(11/21撮影)

